

札幌モビリティショー2024に学校法人北海道科学大学のT型フォードを出展

2024年1月19日(金)・20日(土)・21日(日)、札幌ドームで開催された札幌モビリティショー2024に学校法人北海道科学大学所有の1926年製T型フォードを出展しました。本イベントは、札幌モーターショーから札幌モビリティショーへとイベント名を変更し、4年ぶりに開催されたものです。

2024年に法人創立、北海道自動車学校開学100周年を迎えるにあたり、本学の歴史に触れてもらうため、イベントブースには、昭和6年の自動車運転技能教授所(豊平区中の島)の風景写真を背景に、当時教習車として利用していたT型フォードの展示を行いました。

3日間合わせて約8,000名の方が訪れ、車両の解説に熱心に耳を傾けている方や、実際に車両に乗って記念撮影をするなど多くの方で賑わいました。

当日は、北海道自動車学校の職員をはじめ北海道科学大学教職員・学生が協力し、イベントの運営に携わりました。



1926年製T型フォード

展示したT型フォードは、法人の始まりである自動車運転技能教授所(現北海道自動車学校)に98年前に導入された教習車で教習車引退後、北海道自動車短期大学の実習車両として残されたものです。

T型フォード
再生プロジェクト特設サイト

法人創立100周年記念事業寄付金ご協力をお願い

2024年に予定している法人創立100周年記念事業では、本法人が今後目指す「次の100年」を社会に発信するべく、多くの方の想いが反映されるよう諸事業の展開を計画しています。2024年度は手稲山登山やHUSキャンパスイルミネーションなど四季のイベントを実施するほか、8月10日(土)には札幌文化芸術劇場(hitaru)で100周年記念セレモニーを実施予定です。

つきましては、諸事ご多端の折、誠に恐縮に存じますが、寄付の趣旨にご賛同いただき、卒業生、保護者、地域社会の皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。2023年12月31日現在で、累計141,525,000円の寄付を賜っております。

応募期間

2025年
3月31日まで

応募の対象

個人の方
「一般有志・卒業生・保護者・教職員」
一口につき5千円

法人の方
「企業・団体」
一口につき5千円

寄付の詳細につきましては、法人創立100周年記念事業寄付金サイトにてご確認ください。

法人創立100周年記念事業寄付金サイト > <https://ed.hus.ac.jp/100th/donation/>

こちらからも
ご確認いただけます



北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2024年2月19日(第220号)



〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
TEL: 011-681-2161(代表) FAX: 011-688-7639(代表)
HP: <https://www.hus.ac.jp/>

企画編集・発行: 北海道科学大学 入試広報センター

+Professional

ヒューマニティ、コミュニケーション能力、問題発見・課題解決能力、マネジメント能力といった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。
すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
TEL: 011-681-2161(代表) FAX: 011-688-7639(代表)
HP: <https://www.hus.ac.jp/>

HUS
NEWS
LETTER

Vol.43 / Hokkaido University of Science

INDEX 01 | 特集.1 産学官連携Webマガジン「TEINer」
03 | 特集.2 冬の災害に備える防災プロジェクト「MaSa」
05 | 学生の活躍
07 | 研究室から
09 | 卒業生訪問
10 | HUS調査隊

北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2024年2月19日(第220号)

02 | SPECIAL
FEATURE

冬の災害に備える
防災プロジェクト「MaSa」

TEINer

01 | SPECIAL
FEATURE

産学官連携
Webマガジン「TEINer」



産学官連携 Webマガジン

TEINER

北科大がある手稲区には、どんな魅力があるのでしょうか。「TEINer (ティナー)」は、そんな手稲の街の魅力が北科大の学生たちが歩いて探し、自分たちの視点で写真や動画に収めたり、記事を書いたりして発信しているWebマガジンです。北科大には自宅と大学の往復だけで、拠点となっている手稲の街のことを知らない、興味が無いという学生が少なくありません。

とはいえ、大学に若者は区にとって財産です。「TEINer」街をつなぐ媒体として、本学に加え、札幌市



通学約5,000人の産ともいえる存在は、そうした学生とて2019年に誕生。手稲区、Webデザイン会社のコモノ未来デザイン学部メディアデザイン学科の2年生全員が授業の一貫として記事制作。2024年3月に、なんと約30本の記事が一挙に公開される予定です！「通学」「ごはん」など、手稲の人と店とそこに流れる時間が感じられる、学生ならではのユニークなカテゴリに分けて紹介しています。ぜひWebサイトを開いて“歩きたくなる手稲の魅力”に触れてみてください。

メディアデザイン学科 プロジェクト演習I

2023年度から「TEINer」が必修科目に！

2023年度はメディアデザイン学科のシラバスを改訂。「TEINer」の特集企画と取材活動を必修科目の「プロジェクト演習I」として実施しました。演習は「手稲エリアのブランディングの向上」を目的に15回の授業として展開。4人1組でチームを

つくり、ブランドづくりを学んだ上で企画を考え、手稲の街を取材して記事を仕上げていきました。また、制作のアドバイスやWebのコーディングはコモノ株式会社がサポート。手稲区も「TEINer」の公開セミナーや広報などを担当しました。

授業の流れ

01. ガイダンス、ブレインストーミング
02. ゲスト話題提供 (テーマ:手稲区ウォーキングマップと手稲区ガイド紹介)
03. 企画立案



02

わたしたちが作っています。

手稲区×北海道科学大学×コモノ株式会社

未来デザイン学部
メディアデザイン学科
道尾 淳子 准教授

学生たちの自由な発想から生まれる記事には、いつも驚かされます。おかげでタウン誌とは違う差別化された面白さや意外性が詰まっていると思います。記事制作を通して学生が成長する姿を見られるのがうれしいですし、一人ひとりの個性がサイトをより深くしてくれていると実感しています。

未来デザイン学部
メディアデザイン学科 2年
ルサコヴィチ・イリヤさん

チームでは、制作する記事のアイデアを取りまとめたり、原稿の進行管理など調整役を任されています。サイトは文章を短く、構成もシンプルに見やすく読みやすくなることを意識しました。取材して原稿を書き、1つのページができる工程を学べたのが面白かった。早く完成形を見たいです！

未来デザイン学部
メディアデザイン学科 4年
阿部 結さん

「この25分が永遠に続けば」という、通学をテーマにした記事を作りました。サイトの制作は初めての経験で苦労しましたが、企画から制作まで1人でやりきったことで、デザインのスキルと根気強さが増した気がします。デザインのプロからコメントをいただけたのも貴重な経験でした。

コモノ株式会社 代表取締役
クリエイティブディレクター
矢野 奨さん

北科大生は個々の能力が高く、意欲的な学生も多い。プロジェクトのポテンシャルを感じています。これから持続可能な関係性や仕組みを整えながら「学生たちのポートフォリオ」であり、「手稲の魅力を発信するメディア」でもある一挙両得なサイトとして、一緒に育てていきましょう。

手稲区
健康・子ども課長
小林 祐司さん

学生ならではの視点で制作された記事を通して、幅広い世代の方に手稲の街の魅力を知ってもらい、ウォーキングを楽しむきっかけになればうれしいです。学生の皆さんには、これからもどんどん独自の発想や発見、体験の記事にして街の魅力をアピールしてくれることを期待しています。

これまでのTEINerの歩み

記事とマッピングを組み合わせ、魅力発信とウォーキング機会の創出を図ってきました。



2019
手稲区ウォーキングマップを検証し、GoogleMap化



2020
道尾ゼミの学生が企画・取材した3つの特集を公開



2021
道尾ゼミや関心のある学生が手がけた2特集を追加



2023
学生8名分の8特集を追加16特集のマガジンに拡充

04. 企画立案
05. 取材準備
06. 取材活動
07. 取材内容の整理、ライティング、デザイン、レイアウト1
08. ライティング、デザイン、レイアウト2
09. 企画・構成内容の中間発表
ゲスト話題提供 (テーマ:WEBメディアの運用事例紹介)



06

10. ライティング、デザイン、レイアウト3
11. ライティング、デザイン、レイアウト4
12. Webレイアウト1
13. Webレイアウト2
14. グループ発表・振り返り
15. 最終発表・振り返り
ゲスト講評 (コモノ株式会社 矢野さん)



15



冬の 災害に備える 防災プロジェクト MaSa Make a Safe area



もしも冬に地震や停電などの
災害が起きたら
学内に残る学生や教員、
周りに暮らす住民たちを本学は
どのようにして守ることができるだろうか。
そのための防災訓練を、
今年度も実施しました。

2023年12月2日に行った防災訓練には教員や事務局スタッフ、警備員のほか、保健医療学部学生71名と工学部学生5名が参加。前半は朝9時に地震が発生したことを想定して指示系統を確認し、停電となったC棟から学生を避難させる訓練を行いました。

保健医療学部の学生は負傷者をストレッチャーに乗せ、C棟の3階から1階まで階段で下ろす搬送を経験。担当した学生は当日の振り返りで「エレベーターが使えないとこんなにも階段に人が集中するとは。混雑して搬送するのがかなり難しかった」とコメントを。

HUS防災ページ



2023年の防災訓練は初の試みとして、警備員が対策行動を主導する形で実施。隊長を務めた警備員の小林翔さんは「これまで以上にリアルな訓練となり、身が引き締まりました。どのくらいの時間で1棟を巡ることができるかなども分かり、良いシミュレーションができました」。

工学部の学生は教員の一報を受けて、自宅や研究室から大学のE棟に集合。タブレットを持って学内をくまなく巡り、建物の被害状況を確認して地図にマッピングしたほか、二次被害を防ぐため、危険箇所にロードコーンを置いていきました。



防災訓練の後半は、大学が所有する防災用品をE棟に設置。発電機や簡易トイレなど、学内にどのような設備や備品があるかを自分たちで用意して学びました。また、工学部の学生はE棟前にテントを設営。ビニール袋を使用した「濡れない足湯」が人気を集めていました。



中央ビルメンテナンス株式会社
北海道科学大学 警備隊長
小林 翔さん



本学の体育館は、手稲区における指定緊急避難場所兼指定避難所（基幹）に指定されており、災害時には避難所として一般開放されるため市の備蓄食料などが保管されています。しかし、避難所を開設するには市の判断が必要で、その判断が下るのは発災後、数時間から半日、長い場合は1日を要することもあります。そのため、本学では、避難所の開設を待たずに学内の学生や教職員、近隣住民の安全を確保するための大学独自の防災対策を検討。特に積雪寒冷地である北海道において、一刻の猶予も許さない冬に災害が起きた場合に、大学として有効的に防災活動を行えるよう「MaSa (Make a Safe area)」というプロジェクトを立ち上げ、学科や事務局、さらには警備員などの垣根も越えた準備を進めています。

2018年9月に起きた北海道胆振東部地震を機に発足した「MaSa」では毎年、複数回の防災訓練を実施。さらに2023年度は地域との連携を強化し、地域住民への防災知識のアップデートを図る公開講座を開催しました。12月2日の防災訓練では災害発生を朝9時に設定しましたが、実際の災害はいつ起きるか分かりません。警備員が数名しかいない夜中に発災した場合はどうするかなど、課題はまだたくさんあります。日本では積雪寒冷地での冬の災害事例が少なく、特有の準備が明確となっていない中、北科大では今後も「MaSa」の活動を通して準備すべきことを探り、大学に関わるすべての人たちの安全確保に努めていきます。

工学部 都市環境学科
細川 和彦 准教授

保健医療学部 看護学科
石川 幸司 准教授

学生たちには自分の
防災力を高めてほしい

「悲観的に準備して、楽観的に対処せよ」という言葉がありますが、「備え」に終わりはありません。大切なのは共助に頼るだけでなく、自分の防災力を高めること。学生にはMaSaをきっかけに、災害時に自分に何ができるかを考えてほしいですし、できることを増やしてもらえたらと願っています。

大学全体で実践できる
防災対策を目指します

災害時は指揮系統を明確にすることが最も大切です。今回はその確認作業ができたのが大きな収穫でした。次年度以降は大学として意思決定を素早くできるようフローを整理し、誰が大学に居ても実践できる仕組みを整えるために必要な訓練を企画していきたいと考えています。



11月14日
開催

講座 公開

地域の人に向けて、もしもの備えと
本学の防災対策を伝える講座を開催

2023年11月14日には、MaSaのメンバーで、寒冷地工学を専門に研究する工学部都市環境学科の細川准教授による公開講座を開催。当日は約30名の市民が参加し、北海道の冬季の雪害（落雪による死亡事故など）の実情や、アンケート調査による地域住民の災害に向けた備えの現状を理解。そのうえで細川准教授が勧める外出時の備え

をはじめ、公助が来るまでの間をいかに自分で乗り切ることが大事かを学びました。さらに本学のガスコージェネレーションシステムをはじめとする防災機能も見学。参加した市民からは「近くにこんな場所があったとは」「災害時には北科大に来ると安心ですね」との声が多く聞こえていました。



「冬季間の防災を考える
『防災知識のアップデート』」



花の個性を見つめ、どう魅せるか。

自分らしさを掛け合わせ自由に表現する

奥深き華道の世界をのぞいてみませんか。

華道同好会

Flower arrangement club

実は誰でも簡単に始められる華道。花と向き合う時間に、心癒される。

私が華道と出会ったのは、小学4年生の時でした。華道教室を訪れ見よう見まねで生けているうちに、そのままでも美しい花をもっと美しく見せることができるのだと分かり、その奥深さにひかれていきました。同じ種類の花でも、色や形、花の数、蕾や葉の状態などはさまざまで、一輪として同じ花はありま

せん。花の個性を活かすにはどうすればよいか、日々の悩みも忘れるほどに没頭する時間は、ときに心の負担も軽くしてくれます。

華道は敷居が高いと思われがちですが、ある程度の道具は100円ショップでもそろえられます。ぜひ皆さんにも生け花に挑戦してみしてほしいです。ハサミ、花器（瓶やお碗でも可）、剣山またはオアシス（花を挿すスポンジ）、水、花を用意したら、あとは

生けるだけ。華道にはさまざまな流派や型が存在しますが、華道同好会でも扱っている「華道家元池坊・自由花（じゆうか）」のように定まった型を持たないスタイルもあるので、思いのままに表現できる楽しさを感じられるはずです。ポイントは、花を買いすぎないこと。メインの花と、飾りになる葉物や枝物など3〜4種類で生けると、まとまりのある仕上がりになります。



同じ花から個性豊かな作品が！
正解がないから、華道は面白い。

華道同好会の活動は週2回ほど。外部の講師を招いて稽古を受けています。用意された花材を自由に生け、出来上がった作品に対して講師からアドバイスをもらいます。同じ種類の花材を使っている、生ける人の感性によって全く異なる仕上がりになるので、他のメンバーの作品を見るたびに気づきがあります。作品の仕立て方もさまざまで、「この花をどう活かすか」と考える人もいれば、「○○のような形にしよう」とテーマを決めて取り組む人もいます。花の個性と生ける人の個性が組み合わさって、そのときにしか生み出せない作品ができて上がる。これぞ華道の醍醐味だと感じています。

出来上がった作品の一部は、大学祭や学内イベントで展示しています。今年の大学祭では、講義棟（G棟）の階段横に作品を並べ、多くの方に見ていただくことができました。花材を選ぶところから始めたので、いつも以上に自分らしさを表現でき、他のメンバーの作品も個性があふれ生き生きとして見えました。こうした発表の場は、活動の大きなモチベーションになっています。さらに希望すれば、デパートの催事場などで開催される「花展」に出瓶することも可能です。2023年6月には、前部長（現副部長）の滝田 倅実歌さんの作品が「いけばなの根源池坊展 札幌花展」に展示され、306点の作品のうち34点のみが掲載される専門誌にも取り上げられました。学生の作品が選ばれることは滅多になく、同好会のメンバーにとってよい刺激となりました。

正解がなく、自由に表現できるのが華道の良さです。同好会では、出来栄を競うのではなく、それぞれが花とゆっくり向き合う時間を大切にしています。初心者も経験者も関係なく、和気あいあいと活動していますので、興味がある方はぜひ見学にお越しください。



「食べる輸血！」
食作家 園山真希絵 × 講談師 田辺鶴英の
異色コラボ！
北の大地ライフサイエンス創生研究所（CRILS）
が赤ビーツを使った料理動画を制作しました。

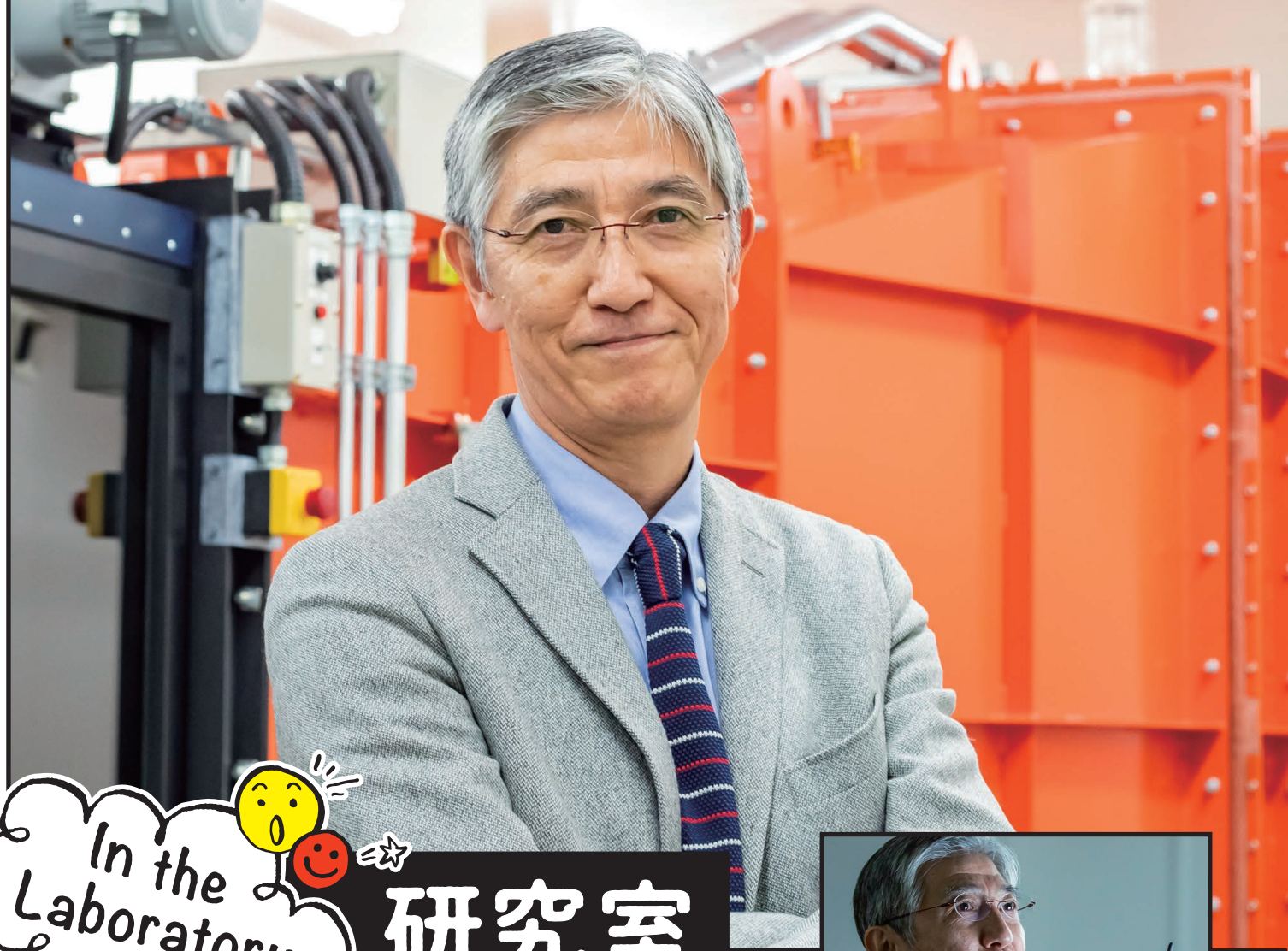


本学学生が
第62回日本生体医工学会
北海道支部大会で受賞しました。



電気電子工学科の学生が
JPHACK2023で
Best Learners Team Awardを
受賞しました。





In the Laboratory

研究室から

工学部 機械工学科
Matsuda Hisashi
松田 寿
教授



▲タイヤハウスにできた雪塊

目には見えない「空気の流れ」と向き合うことは、環境問題を考えるうえでも重要!

――先生の専門である流体力学とは、どういった学問なのでしょうか。

流体力学は、空気や水の流れを扱う学問です。飛行機などの乗り物から、野球で変化球が生じるメカニズムまで、身の回りのあらゆる現象に流体力学が関連しています。自動車の燃費には空気抵抗

が大きく影響しますし、ポンプや送風機といった流体機械の高性能化には、流れの制御が欠かせません。流体力学では、こうした機器周辺に起こる空気の渦の発生を抑えたり、剥離流れを抑制したりすることで、より高効率・低騒音・低振動の機器開発ができるのかと考えていきます。

さらに、地球温暖化により増加する水害や再生可能エネルギーとして注目される風力発電など、地球規模の課題を考える際にも重要な学問分野です。

風 車翼侵食被害の軽減にも、感染症対策にも。流体力学的知見はあらゆる場面で活躍中!



――とても裾野の広い学問分野なんですね。先生はどのような研究テーマに取り組んでいるのですか?

研究室では4つのテーマを扱っています。1つ目はポータブル空気清浄機の開発です。ナカ電子株式会社との共同研究で、紫外線照射によりウイルスを不活性化化する換気装置を開発中です。

2つ目は、風車用エロージョンシートの耐候性評価研究で、本学R2棟に設置されている自然雪風洞実験装置を使い、着雪着氷や氷塊の剥離が風車翼へ及ぼす影響を計測しています。

3つ目は、流れ計測のためのシャボン玉発生装置の開発です。一般に空気の流れを可視化するには煙を使いますが、粒子が小さいため、強力なレーザー光線では計測できません。開発中の装置は直径0.9mmのシャボン玉を発生させることで、強度の低いレーザー光線での流れ計測を可能にしました。

そして4つ目が、メインの研究テーマである、プラズマアクチュエータの応用研究です。

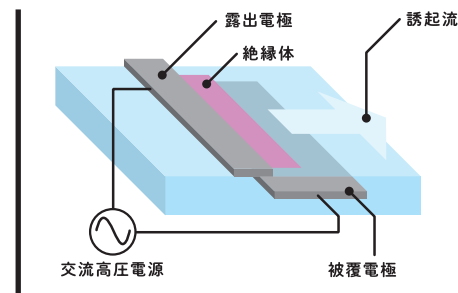
科 学技術で生活を快適に!
北海道の冬に潜む危険を解消する新たな技術を開発中。

――北科大に来る前から研究されているというプラズマアクチュエータ(以下PA)。一体どんなものなのでしょう?

PAとは、厚さ数mmの駆動部を持たない流体制御デバイスです。2枚の電極に誘導体(電気を通さない材質)を挟んだ構造で、電圧を印加しイオン風を発生させることで流れを制御します。PA周辺の空気の渦に共振させれば大きな流れの制御が可能になるため、飛行機や自動車周りの流れに対する気流制御利用が期待されています。

私は民間企業にいた頃にPAに出会ったのですが、ペラペラの装置が気流を変える光景に衝撃を受けました。それ以来「この技術を世に出したい」という思いで実用化に向けた研究に取り組んでいます。

本学では実用PA電極を開発している株式会社朝日ラバーからの委託を受け、PAの耐候性評価を実施しています。ここ数年の取り組みで、PAが気流だけでなく降雪流も制御できるということを明らかにしました。この技術を活用すべくまず目をつけたのは、冬にJRを利用するたびに「どうかならないか」と考えていた、電車ドアへの雪の付着です。ドアの模型を作り、自然雪風洞実験装置で雪を降らせてPAの効果を調べたところ、堆雪量の20~30%を低減できることが明らかになりました。この研究内容は学術論文で紹介される電子ジャーナルにも掲載され多くの反響を得ています。



▲プラズマアクチュエータの仕組み

――PAが雪の流れも制御できるということは、松田ゼミによって発見されたんですね!道民にとって、雪によるトラブルが軽減されるのは嬉しいことです。

公開講座等で降雪流研究を紹介する中でも、道民の皆さんが期待を寄せてくださっていることはひしひしと感じています。

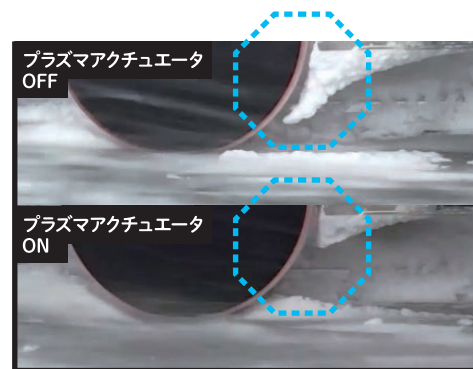
電車ドアの研究を経て、現在は自動車のタイヤハウス周辺の雪塊形成の制御に関する研究を進めています。2022年度の研究で、タイヤ周辺に雪塊ができるメカニズムを明らかにし、さらにはPAによりその形成を抑制することに成功しました。この成果を受けて、2023年度からは新たな委託研究も始まりました。風洞実験の実施に加え、PAを自動車実機に搭載する際の課題についても議論を始めているので、実用化に向けて今後ますます前進していくものと期待しています。

――タイヤ周りの雪塊に悩まされている方は多いでしょうから、完成が待ち遠しいです!最後に、今後の目標を教えてください。

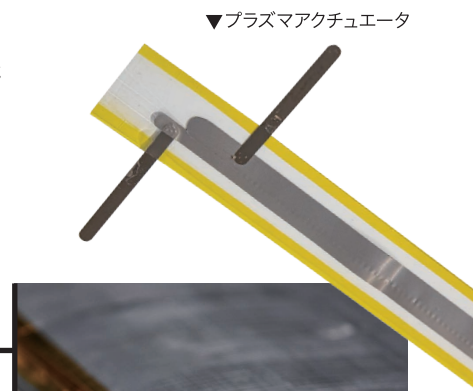
まずは、電車のドアや自動車のタイヤハウスに関する研究成果を実用化に結びつけたいです。PAの技術を世に出したい、実生活に活かしたいというのがエンジニアとしての私の願いです。

さらに開発中のシャボン玉発生器についても改良を進め、ビル風のような大きな気流や風車のような回転場を可視化できるようにしたいと考えています。実地で流れの計測ができるようになれば、流体力学の応用範囲はもっともっと広がるはずです。

そして、これから本格的に着手したいのが流体解析コードの開発です。実現すれば、PAの効果を計算から導き出せるようになります。そうなるにより効率的に検証できますし、PAの研究もさらに加速していくであろうと期待しています。



▲自然雪風洞着雪試験



学内ニュース HUS CAMPUS NEWS

建築学科の学生が「北の住まい住宅設計コンペ」最優秀賞を受賞しました。



詳しくはこちらをご覧ください



English Lunch クリスマスパティーを開催しました。



詳しくはこちらをご覧ください



「北海道起業家甲子園2023」で本学の学生が最優秀賞を受賞しました!



詳しくはこちらをご覧ください



GRADUATE VISIT 卒業生訪問

先輩の大学時代と ←→ これからを聞く

診療放射線技師と医学物理士として、
放射線治療に
幅広く関わっています。

私は診療放射線技師のほか、医学物理士の資格も
持っており、市立旭川病院の放射線科で両方の資格
を活かした業務を行っています。診療放射線技師とし
ては患者さんへの放射線照射や、治療計画用CTの
撮影などを行います。一方、医学物理士は診療放射
線技師が扱う放射線の品質を“管理する”のが主な仕
事です。放射線は正しく使用しないと人体に害を及



ぼすため、適切な方法で予定された線量を正しく照
射できるよう、治療装置の品質管理や治療計画の立
案、線量測定などを行っています。治療の計画・検
証・照射までの一連の流れを完結できるのは、2つの
資格を持っているからこそ。常に質の高い治療を提供
できるよう、医師、看護師と連携しながら日々の業務
に取り組んでいます。

将来は放射線治療のスペシャリストに。
北科大が、漠然とした将来像を
鮮明にしてくれました。

幼少期に入退院を
繰り返していたことを
きっかけに医療職を
志すようになり、診療
放射線学科の1期生と
して北科大に入学し
ました。

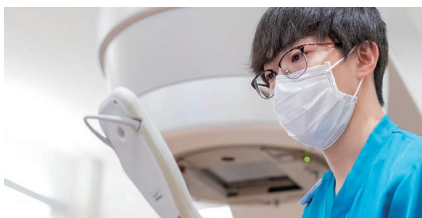
高校数学、物理、生
物などの基礎科目に加えて、放射線の専門科目がたく
さんあり、単位取得に苦労しましたが、新しい学部棟
のきれいな環境で落ち着いて勉学に励むことができ
ました。3年次には体調を崩し休学をしましたが、先
生方の手厚いサポートのおかげで4年に進級するこ
とができました。また卒業後の進路について悩んでい
たとき、放射線治療をやってみたいという相談に、将
来の選択肢を増やすために大学院進学を勧めてもら
いました。北科大での学びが自分のやりたいことや将
来像を明確にしてくれたと思っています。



8年間の学びを終え、
現在は臨床現場で奮闘中。
業務を支えているのは、
北科大で培った基礎知識。

医学物理士という専門職があることを知ったのも、
北科大の在学中でした。実習先で臨床現場を見たこ
とで放射線治療に一層の興味が湧き、「せっかく学ぶ
なら、より専門性の高い医学物理士を目指そう」と卒
業後に東北大学大学院へ進学。さらに新潟大学医歯
学総合病院での臨床研修プログラムに参加して資格
を取得しました。

北科大を卒業し、医学物理士を取得するまで4年
間学び、2023年4月から初めて臨床現場で働いてい
ます。診療放射線技師の資格を取得してから相当の
ブランクがあるので、北科大で使用していた教科書
や講義資料は今でも貴重な財産です。何度も見返し
ては、大学での基礎的な学びの大切さを日々実感して
います。



進歩が早い放射線治療の世界。
将来は臨床と研究開発の両面から
貢献できる医学物理士になりたい。

診療放射線技師と医学物理士の両方の資格を持っ
ていることはその分、責任を伴いますが、これまでの
経験を活かせることは嬉しいことですし、やりがい
を感じています。放射線治療は高線量を照射するの
で、ミスは絶対に許されません。業務の一つひとつにど
んな意味があるのか、より効率的な方法はないか、常に
注意を払いながら仕事をしています。

現場から離れ研究開発分野に進む医学物理士も多
いですが、私は患者さんのそばで
何ができるかを考えたいと思っ
ています。進歩が早く、たった数年で
新しい技術が確立する世界です。
情報収集を怠らず、今の環境で取り
入れられそうなものは積極的に取
り入れることが、患者さんの利益に
つながります。ゆくゆくは私自身も
研究を行い、臨床業務と両立しな
がら研究開発分野にも貢献してい
きたいです。



市立旭川病院 中央放射線科
医学物理士・診療放射線技師
第一種放射線取扱主任者

たなべ しゅんぺい
田邊 俊平 さん

Profile

札幌市出身。2019年3月に北科大 保健医療学部 診療
放射線学科を卒業後、東北大学大学院 医学系研究科
放射線腫瘍学分野の修士課程を修了。新潟大学医歯学
総合病院 放射線治療科 医学物理士レジデントコースを
卒業し、2023年4月より現職にて勤務。



HUS 調査隊

このページは、学生記者が担当しています。

学生たちのスマホの 裏側リサーチ！

今回は様々な学科の学生たちに聞
きこみ調査！北科大生たちのスマ
ホの裏側にはどんな世界が広がっ
ているのか、学科ご
とに違いはあるのか、
どのような事情があ
るのかなど、学生記
者がリサーチ！



42台を
調査した結果

プリクラやステッカーを入れるためクリアケース
を使っている学生が多く、ケースをつけていない
人からオリジナルケースを作る学生まで想像以
上に幅広い個性が見られました！

取材して欲しいことなど
みなさんの声を
聞かせてください。



詳しくは、こちらまで！